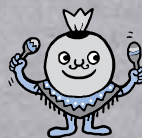
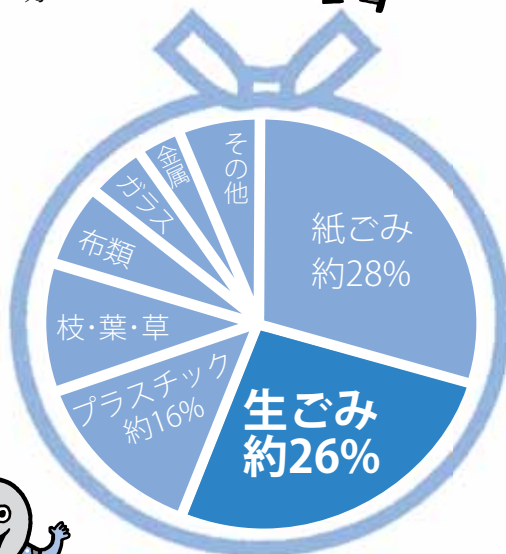




はじめませんか？ごみ減量！ 生ごみリサイクル！



ごみの1/4が
生ごみ



家庭から出るごみの内訳
(重量による割合：平成20年度)



家庭から出るごみの約四分の一が生ごみ。燃やせるごみとして出してしまうと、ただ燃やされてしまうだけです。しかし、生ごみを自ら堆肥化し、リサイクルすることで、環境にも優しく、指定袋で出すごみの量が減ります。

生ごみからできた堆肥は、良質の堆肥としてガーデニングなどに利用できます。

厚別区にあるリユースプラザ（左ページ参照）に生ごみ堆肥を持ち込めば、公園や道路の花壇などの堆肥として有効活用されます。



堆肥化の前にできる
生ごみ減量は…

家庭から出される生ごみの約三分の一は、「食べ残し」や「未開封品」で占められています。

また、「調理くず」も、いろいろな調理方法によって、ごみとして捨てずに済むこともあります。

生ごみの減量には、必要以上に買わないなど、まずは毎日の食生活を見直すことが大切です。



1 用意するもの

- ・段ボール箱 2 箱
(縦30cm×横45cm×高さ30cm程度、みかん箱など)
※二層のものがあるとよい
- ・箱の底を浮かせるもの
(木片・ラップの芯など)
- ・ピートモス：12^{リットル}
- ・もみがらくん炭
(蒸し焼きもみがら)：8^{リットル}
- ・木べらまたはシャベル
(かくはん用)

※ピートモスともみがらくん炭は、ホームセンターや園芸店などで売っています。



段ボール箱 での 生ごみ堆肥化

○ 堆肥化できるもの

調理くず、食べ残し、お茶がら、コーヒークず、魚のあらなど

× 堆肥化できないもの

腐敗したもの、塩蔵品（塩鮭・塩からなど）貝殻、豚骨など

注意：生ごみでも、固いものや繊維の多いものは分解しなかったり時間がかかります。残ったものは取り出して「燃やせるごみ」へ。

段ボール箱を使った堆肥化の方法を簡単に紹介します。あまりお金をかけずに、屋内で行える方法です。

※ダニやカビが発生することがあるので、アレルギーを持っている人はご注意ください。

家庭から出るごみのうち「紙ごみ」に次いで多いのが「生ごみ」。しかし、この生ごみは各家庭でリサイクルすることができます。あなたも生ごみリサイクルにチャレンジして、ごみ減量生活始めませんか？

ごみの減量やリサイクルについてのお問い合わせは
ごみ減量推進課 ☎(211) 2928へ

